

## ドイツ語（初級 A）／A ドイツ語 第 11 回 話法の助動詞

範囲：教科書第 7 課（S. 29-31）

### 《今回の基本例文》

33. Darf ich dich einen Augenblick stören? (CD36-2)

一瞬だけお邪魔しても構いませんか？

[話法の助動詞 dürfen、時間を表す副詞的 4 格]

34. Können Sie Deutsch verstehen? (CD37-2)

あなたはドイツ語をお話しになれますか？

[話法の助動詞 können]

35. Du musst mehr Gemüse essen. (CD38-3)

君はもっと野菜を食べないといけない。

[話法の助動詞 müssen、不定数詞 viel、viel の比較級 mehr]

36. Wir sollen die Verkehrsregeln beachten. (CD39-2)

私たちは交通規則に注意すべきである。

[話法の助動詞 sollen]

37. Jürgen will Ingenieur werden. (CD40-1)

ユルゲンはエンジニアになりたい。

[話法の助動詞 wollen]

38. Ich möchte eine Tasse Tee trinken. (CD41-1)

私は紅茶を一杯いただきたいと思います（紅茶を一杯ください）。

[話法の助動詞 mögen、mögen の接続法 II 式 möchte、助数詞]

## I 話法の助動詞

### 1 話法の助動詞の現在人称変化 (S. 29)

◇ 英語では、助動詞として *can, may, must, shall, will...*などを習い、「動詞の原形と併用する」と教えられたはずである。ドイツ語にも助動詞があり、動詞の不定詞とともに使用される。ただし、助動詞は不規則な現在人称変化をし、使用するときの語順も英語とは大きく異なる。

\* ちなみに、ドイツ語の助動詞は、教科書にあるように「話法の助動詞」と呼ばれることが多い。ここで言う「話法」は、直接話法や間接話法の「話法」ではなく、むしろ直説法や命令法や仮定法の「法 (Modus、英 mood)」と関係がある。Modus の形容詞形が modal であり、Modalverben を「法の助動詞」ではなく「話法の助動詞」と訳しているのである。

\*\* つまり、文の内容を単に事実として提示するのではなく、誰かの判断（可能、許可、義務、必然、推量、願望など）を含めて示すときに用いるのが話法の助動詞である、ということになる。

\*\*\* 以上は「話法の」とはどのような意味なのか疑問に思った人のための蛇足的説明で、もちろん覚える必要はない。

◇ 各話法の助動詞の意味はのちに整理するとして、取り敢えず教科書 S. 29 の現在人称変化表を覚えること。

- ◇ 語法の助動詞の現在人称変化の特徴は、
- ・ 単数に対してのみ不規則変化、複数に対しては規則変化。
  - ・ **ich** と **er** に対する変化形が同じ。
  - ・ **du** に対する変化形の語尾は **-st** (規則変化と同じ)。

	<b>dürfen</b>	<b>können</b>	<b>müssen</b>	<b>wollen</b>	<b>sollen</b>	<b>mögen</b>
ich	<b>darf</b>	<b>kann</b>	<b>muss</b>	<b>will</b>	<b>soll</b>	<b>mag</b>
du	<b>darfst</b>	<b>kannst</b>	<b>musst</b>	<b>willst</b>	<b>sollst</b>	<b>magst</b>
er	<b>darf</b>	<b>kann</b>	<b>muss</b>	<b>will</b>	<b>soll</b>	<b>mag</b>
wir	dürfen	können	müssen	wollen	sollen	mögen
ihr	dürft	könnt	müsst	wollt	sollt	mögt
sie	dürfen	können	müssen	wollen	sollen	mögen

- ◇ もう一つ、教科書に掲載されている **möchte** は、正式には独立した語法の助動詞ではないが、頻出するので、やはりこの機会に覚えてほしい。

	<b>(möchte)</b>
ich	<b>möchte</b>
du	<b>möchtest</b>
er	<b>möchte</b>
wir	<b>möchten</b>
ihr	<b>möchtet</b>
sie	<b>möchten</b>

\* möchte は mögen の接続法 II 式というかたち (英語の仮定法に相当、教科書 S. 70 に登場するが本授業では扱わない) であり、要するに mögen の別形である。

- ◇ 語法の助動詞と似たような変化をする動詞に **wissen** (vt.) がある。

	<b>wissen</b>
ich	<b>weiß</b>
du	<b>weißt</b>
er	<b>weiß</b>
wir	wissen
ihr	wisst
sie	wissen

\* 結局、語法の助動詞以外で完全に不規則な変化をする動詞は、sein, haben, werden, wissen の 4 つである。

wissen は情報を「知っている、わかっている、覚えている」意味で、人や物を「知っている、面識がある」ときは規則動詞の kennen を使う (英語の know の意味がドイツ語では 2 つの動詞に分かれている)。

Ich **weiß** die Wahrheit.  
 私は真実を知っている (=真実をわかっている)。  
 Ich **kenne** ihn.  
 私は彼を知っている (=彼と面識がある)。

■ 話法の助動詞を用いた文の語順

話法の助動詞 → 第 2 位（定動詞の位置）  
不定詞 → 文末

◇ 話法の助動詞を用いた文の語順は、話法の助動詞を定動詞の位置に（平叙文や補足疑問文なら第 2 位、決定疑問文なら第 1 位）、不定詞を文末に置く。図示すれば、

第 1 位	第 2 位	第 3 位以下	文末
…	話法の助動詞（現在人称変化）	…	不定詞

となる。このため、英語とはまったく異なる語順になってしまうわけである。

He can speak English very well.

（助動詞）（原形）

彼は非常に上手に英語を話すことができる。

\* 周知の通り、英語では、主語－助動詞－動詞（原形）－目的語－副詞句の順になる。

Er kann sehr gut Englisch sprechen.

（助動詞） （不定詞）

彼は非常に上手に英語を話すことができる。

\* 一方、ドイツ語では、主語－助動詞－副詞句－目的語－動詞（不定詞）の順（文頭が主語の場合）。

\* 授業第 5 回配付資料 S.1 で、「定動詞と最も結びつきが強い要素は動詞から最も離れた文末に置く」規則（**枠構造**）について説明した。話法の助動詞を用いた文の語順も、定動詞＝話法の助動詞と最も結びつきが強い不定詞を文末に置くという意味で、枠構造の一種である。

\*\* これまで登場した「定動詞と最も結びつきが強い要素」は、4 格目的語、移動の目的地、そして話法の助動詞に対する不定詞であった。ほかにも類似の枠構造はいたるところに出てくるので、その都度確認することにしたい。

i) Ich kann das nicht sagen.

私はそれを言うことができない。

\* この das は this や that を意味する das (das ist ... というときの das)、中性の定冠詞ではない。

iii) Klaus will sie unbedingt heiraten.

クラウスは彼女とどうしても（無条件で）結婚したいと思っている。

\* heiraten は他動詞「(4 格) と結婚する」。

\*\* 以上 2 つは基本的な平叙文。

ii) Morgen musst du früh kommen.

明日、君ははやく来なければならない。

\* 副詞 morgen を文頭に出した平叙文の場合。

iv) Was können wir für Sie tun?

なにかお役に立てますか（私たちはあなたのためになにかできますか）？

\* 疑問代名詞 was を用いた補足疑問文の場合。

v) Darf ich hier rauchen?

ここで煙草を吸ってもよろしいでしょうか。

\* 決定疑問文の場合。

## ■ 各話法の助動詞の意味と用法

<b>dürfen</b> = <i>may</i> (許可)	<b>können</b> = <i>can</i>
<b>müssen</b> = <i>must</i>	<b>sollen</b> = <i>should</i> など
<b>wollen</b> = <i>want to</i>	<b>mögen</b> = <i>may</i> (推量)、 <i>like to</i> (、 <i>like</i> )
( <b>möchte</b> = <i>would like to</i> )	

◇ **dürfen** は、許可の意味の *may* に対応し、

- ・「～してよい」という**許可**。
- ・否定では「～してはいけない」という**禁止**。

\* 肯定系と否定形の関係は *may/maynot* と同じ。

Sie **dürfen** jederzeit gehen.

あなたはいつ立ち去ってもよろしい。(許可)

\* *jederzeit* は副詞「いつでも」。 *dieser* 型の *jeder* (= *every*) と *Zeit* (*f.* 時間) からできた語。

Hier **darf** man nicht parken.

ここには駐車してはいけません。(禁止)

\* この *man* は漠然と人間を表す代名詞。敢えて訳すなら「人々」。 (⇒授業第 9 回配付資料 S.3)

◇ **können** は、*can* に対応し、

- ・「～できる」という**可能**。
- ・「～してよい」という**許可**。
- ・「～かもしれない」という**推量**。

\* *können* の最も基本的な意味は可能で、そこから許可 (～できる=～してよい) や推量 (～でありうる=～かもしれない) が派生したと考えればよい。

**Können** wir hier in der Nähe etwas essen?

この近くで食事はできますか。(可能)

\* *etwas* という不定代名詞が使用されている。*etwas* は漠然と「なにか」を表す代名詞 (英語の *something* に相当)。授業第 9 回配付資料 S.2 で覚えてもらった「物・事」を表す略記号、*et<sup>3</sup>*、*et<sup>4</sup>* などがいずれも *etwas* の略であるのはすでに述べた。

\*\* *in der Nähe* は「近所で」。熟語的表現。

Das Kind **kann** noch nicht laufen.

その子はまだ歩けない。(可能)

\* *laufen* は「走る」として登場したが (⇒教科書 S.15)、単に「歩く」の意味もある。

**Kann** ich gleich gehen?

すぐに立ち去ってもよろしいでしょうか。(許可)

\* *gleich* は副詞「すぐに」。

Das **kann** wahr sein.

それは真実かもしれない。(推量)

◇ **müssen** は、*must* に対応し、

- ・「～しなければならない」という**義務**。
- ・「～に違いない」という**論理的必然**。

\* *müssen* の原義は「～以外に選択肢がない」、そこから義務 (～しなければならない) や論理的必然 (～に違いない) が派生する。このため、似た訳になるとしても、下記の *sollen* (世間一般が～と言っている) とはニュアンスが異なる。

Auch der Vater **muss** für die Kinder **sorgen**.

父親も子供の面倒を見なければならない。(義務)

\* für *jn./et.* *sorgen* は「(4 格) の面倒を見る」。前置詞を用いた熟語。

Die Menschen **müssen** **sterben**.

人間は死ななければならない。(必然)

\* 「人間というものはいずれ死ぬ以外の選択肢を持たない」というニュアンス。

Er **muss** noch im Büro **sein**.

彼はまだ事務所にいるに違いない。(論理的必然)

\* *im* は前置詞と定冠詞の融合形 (*in+dem*)。 (⇒授業第 8 回配付資料 S. 4)

◇ **sollen** は、

- ・「～すべきである」という**道義的要求**。
- ・「(誰かが) ～と言っている」という**他者の意思**。
- ・「～だそうである」という**噂**。

\* *sollen* の最も基本的な意味は他者の意思 (誰かが～と言っている) で、その「他者」が世間一般のとき、道義的要求 (～すべきである) や噂 (～だそうである) の意味が生じる。このため、同じ「～すべきである」と訳す場合でも、上記の *müssen* (～以外に選択肢がない) とはニュアンスが異なる。

\*\* 語源的には *shall* と同じだが、その仮定法形である *should* (～すべきである) に近い使い方をする。

Du **sollst** nicht **stehlen**.

汝、盗むべからず。(道義的要求)

\* ニュアンスは「君は盗まないものだ、と世間が言っている」。上の *Die Menschen müssen sterben.* と比較すること。

Ich **soll** Sie von Herrn Schmidt **grüßen**.

シュミットさんからあなたによろしくとのことです。(他者の意思)

\* 直訳すると、「私があなたに挨拶するものだ、とシュミットさんが言っている」。他者の意思における他者が *von+3 格* で明記されているパターン。

\*\* *von* は 3 格支配だから *Herr* は 3 格にしなければならないが、それは *Herrn*。 (⇒教科書 S. 18)

\*\*\* *grüßen* は他動詞で「(4 格) に挨拶する」。

Ihr Mann **soll** Ingenieur **sein**.

彼女の夫はエンジニアだそうだ。(噂)

\* ニュアンスは「彼女の夫はエンジニアだ、と世間が言っている」。

\*\* *Ingenieur* はフランス語式発音で、*ge[ʒe]* や *eu[ø:]* の部分はドイツ語の規則とは異なる。つまり、この場合の *eu* はドイツ語でいう *ö* と同じ音になる (CD で要確認)。

◇ **wollen** は、

- ・「～したい」という**主語の意思**。
- ・主語が複数 1 人称のとき（多くは決定疑問文で）は「～しよう」という**促し**。

\* wollen＝自分の意思／sollen＝他者の意思と考えればよい。

\*\* 語源的には *will* だが、*want to* や *let's* に近い使い方をする。

Er **will** dich morgen **besuchen**.

彼は君を明日、訪ねるつもりだ。（主語の意思）

**Wollen** wir eine Tasse Kaffee **trinken**?

コーヒーを一杯飲もうか。（促し）

\* eine Tasse Kaffee (*a cup of coffee* に相当) については後述。

◇ **mögen** は、

- ・「～するのが好きだ」という**好み**
- ・「～だろう」という**推量**。

\* 語源的には推量の意味の *may* に対応するが、*like to* に近い使い方もするといえる。

Sie **mag** nicht mit dem Auto **fahren**.

彼女は車で行くのを好まない。（好み、話法の助動詞）

Wir **mögen** ihn, denn er ist sehr freundlich.

我々は彼が好きです、なぜなら彼はとてもいい人だからです。（好み、一般の他動詞）

\* 教科書 S. 25 ですでに登場した例文。mögen は、話法の助動詞ではなく一般の他動詞（4 格）を好む）としても使う場合がある。ドイツ語には英語の *like* に当たる他動詞がないので、こちらで代用する。

Sie **mag** etwa 50 Jahre alt **sein**.

彼女は 50 歳くらいだろう。（推量）

\* 50 は *fünfzig* と読むが、いまは読めなくてよい（教科書第 9 課の範囲）。

\*\* Jahre alt は *years old* の意味。

◇ **möchte** は、

- ・「～したい」という（丁寧な）**願望**。 *would like to* に対応する。

\* *möchte* が *mögen* の接続法 II 式であり独立した話法の助動詞ではないことは、すでに述べた（本資料 S. 2）。

\*\* 同じ「～したい」でも *wollen* より丁寧な言い方になる。接続法は英語の仮定法と同じく婉曲表現になるため（ちょうど *would like to* も仮定法である）。

Ich **möchte** gern Frau Schmidt **sprechen**.

シュミットさんとお話したいのですが。（願望）

\* この *sprechen* は「4 格」と話す」の意味であって、「4 格」を話す」ではない。

## ■ 助数詞

◇ 教科書 S. 31 の例文

Wollen wir eine Tasse Kaffee trinken?

コーヒーを一杯飲もうか。

の eine Tasse (カップ 1 杯の) は、Kaffee (*m.* コーヒー) という数えられない名詞を量るときに用いる**助数詞**である。英語 (*a cup of coffee*) と異なって前置詞は必要なく、測るべき名詞と同格になる。ほかには、

ein Glas グラス 1 杯の (*n.*)

ein Krug ジョッキ 1 杯の (*m.*)

eine Flasche 瓶 1 本の (*f.*)

Ich möchte gern einen Krug Bier trinken.

ビールをジョッキ 1 杯飲みたい (ください)。

\* Bier が他動詞 trinken (〈4 格〉を飲む) の目的語であるため、助数詞の ein Krug も同格の 4 格 (einen Krug) になっている。

## ② 話法の助動詞に準ずる動詞 (使役動詞、知覚動詞) (S. 31)

◇ **lassen** は**使役動詞**全般として使うことができる。意味は「〈4 格〉に〈不定詞〉させる」。

\* 英語の *let* と語源を同じくする語だが、英語のような *make* や *have* との使い分けはない。

なお、lassen は、教科書第 3 課で扱った、単数 2・3 人称で幹母音が a → ä に変音する動詞である。

	lassen	fahren
ich	lasse	fahre
du	lässt	fährst
er	lässt	fährt
wir	lassen	fahren
ihr	lasst	fahrt
sie	lassen	fahren

\* lassen は語幹が-s で終わるため、du lässt と er lässt が同型となる。lesen が du liest, er liest となるのと同じ。

Ich **lasse** ihn kommen.

私は彼を来させる。

\* 「来る」のは「彼」であること、つまり kommen の意味上の主語が ihn であることに注意。

◇ **hören** や **sehen** のような**知覚動詞**も不定詞と併用でき、「〈4 格〉が〈不定詞〉するのを聞く／見る」の意味になる。4 格目的語が意味上の主語となることに注意。

\* 英語でも、*hear* や *see* は「原形不定詞」と併用する。

Ich **höre** ihn singen.

彼の歌うのが聞こえる。

\* 直訳すると「私は彼が歌うのを聞いている」。「歌う」のは「彼」であること、つまり *singen* の意味上の主語が ihn であることに注意。

### 練習問題の補足

#### Übung 1 (S. 30)

1. **viel** (多くの) は、英語の *many* や *much* に相当する (可算か不可算かによる区別はない)。
2. **einen Augenblick** は**時間を表す副詞的 4 格**で、「一瞬」の意味。動詞の 4 格目的語ではなく、文中では副詞として扱う。ほか、**jeden Tag** (毎日)、**dieses Monat** (今月) など。

#### Übung 2 (S. 30)

3. この **es** は自然現象を言うときに用いる主語で、英語の *it* に同じ。 (⇒教科書 S. 21、S. 57)

#### Übung 3 (S. 30)

3. **mehr** は前述の **viel** の比較級で、「もっと」の意味。英語の *more* に相当。

\* **viel** は正確に言えば形容詞ではなく不定代名詞の仲間であるが、比較級や最上級が存在する。これについては、のちにまとめて扱う。 (⇒教科書第 16 課)

#### Übung 5 (S. 31)

2. **länger** は形容詞 **lang** の比較級で、「より長い」の意味。この場合は副詞的用法で「より長く」。
3. **dazu** は**前置詞と人称代名詞の融合形**だが、特に「そのために、それについて、それに加えて」の意味で用いられる。 (⇒教科書 S. 27)

### 参考 「野ばら」と知覚動詞

◇ 知覚動詞を用いた日本でも著名なドイツ語文の例は、

Sah ein Knab ein Röslein stehn, Röslein auf der Heiden.

童は見たり、野中の薔薇。(近藤朔風訳)

とはじまるゲーテ作詞の歌曲「野ばら」で、中学や高校の音楽の授業などでよく取り上げられる。

**sah** は (授業ではまだ扱っていないが) **sehen** の過去形であり、**Knab(e)** は **Junge** と同じ意味。定動詞が第 1 位にあるのは決定疑問文だからではなく、詩の韻律 (アクセントのリズム) を強弱強弱強弱... にするため (**stehen** が **stehn** なのも同じ理由)。**Röslein** は **Rose** (*f.* バラ) に語尾 **-lein** をつけたもので、**Frau** → **Fräulein** と同じ理屈で中性名詞になる。コンマのあとの **Röslein auf der Heiden** は **ein Röslein** の言い換えで、**auf der Heiden** はもちろん 3・4 格支配の前置詞 **auf** を 3 格と (=単なる位置関係) 使っている。**Heiden** は **Heide** (*f.* 荒野) の別形。以上を踏まえて、現代語として普通の書き方をするとこうなる。

Ein Knabe sah ein Röslein stehen, Röslein auf der Heide.

少年は小さな薔薇が生えているのを見た、野原のうへの薔薇が。

シューベルトによる歌曲は、以下の URL で聞くことができる

(<https://www.youtube.com/watch?v=07VkeE7E0D-U>)。

#### 連絡先など

教員のメールアドレス: [tokan@nifty.com](mailto:tokan@nifty.com) 授業のウェブサイト (進捗表示、配付資料あり): <http://hhasegawa.la.coocan.jp/lecture/>